

弥生時代の地形の様子



弥生時代の名取の地形について

名取川下流域は、縄文時代の温暖化に伴う海面上昇期であっても、名取川が比較的急流河川であったので、大量の土砂を下流域に運び、その堆積作用により、早くから平野が大きく広がりました。

名取川沿いに発達した自然堤防の微高地は、排水条件が悪い粘土質の地盤でした。

また、前の時代から始まった海水面の下降によって、丘陵付近に取り残された沼や湿地帯は、弥生時代に入っても残っていたようです。

第11回「ふるさと名取の歴史展

- 目で見える名取の歴史 - (弥生時代)



発展し続ける名取の基礎を築いた 弥生時代

農耕に適した平野が早くから開けていた名取の地は、生業が狩り中心から稲作中心の農耕に移行し始めた当時の人々にとって、理想的な土地であったようです。そこに暮らしていた名取の弥生人は、自然条件に左右されながらも、農耕社会の基盤をより強固なものとし、弥生文化を発展させていったのでしょう。

名取平野には、名取川を始めとする河川によって運ばれてきた良く肥えた土が堆積していたこともあり、徐々に余剰生産物を生み出せるような生産力を確立していったようです。ナイル川流域に発生したエジプト文明が「ナイルのたまもの」と言われたように、名取平野も名取川などの恩恵を受けていたのです。

開墾や治水などの共同作業では、指導者の役割が大きく、彼らは次第に人々の生活全体を支配する権力を握るようになり、豪族と呼ばれる支配者へと生まれ変わっていったのでしょう。

古墳時代に出現する雷神山古墳や飯野坂古墳群などの大規模な古墳が、ここ名取に数多く存在することは、この地域に豪族がいたことと、それを造るための経済的な基盤がしっかりしていたことを物語っています。まさに、弥生時代に始まる稲作農耕が、発展し続けてきた名取の基礎となっているのでしょう。

名取市管内図



弥生時代の遺跡の分布

弥生時代の遺跡は、まだ丘陵上に多く分布しています。丘陵付近の湿地帯は、稲作に適していたのでしょう。

また、この時代になると名取川沿いに発達した自然堤防上（微高地）にも遺跡が見られるようになります。自然堤防の微高地は、排水条件がよいため、集落や畑地に適し、その周辺の後背湿地は、稲作に適していたからなのでしょう。



お問い合わせ

名取市教育委員会 文化振興課 文化財係
022-384-2111 (内線642・643)